ID 059394

未来につながる エコ・ワード Vol.5

ニュースで耳にする環境「ワード」。
明日への行動につなげてみよう。

問 環境政策課／TEL674-7486

問題 「プラスチック・スマート」キャンペーンとは？

Plastics Smart

A 軽くて持ち運びやすいプラスチックを使う取り組み
B 高機能プラスチックを開発する取り組み
C プラスチックと賢く付き合うための取り組み

答え C プラスチックと賢く付き合うための取り組み

解説

近年、世界中で注目されている海洋プラスチック問題。海に流出するプラスチックごみの量は世界中で年間800万トンとも言われていて、2050年には海洋中の魚の量を超えると試算されています。

また、海洋プラスチックごみは長期にわたり海に残存し、海の流れや紫外線の影響で細かく砕かれて回収が難しくなったり、魚が誤って食べたりすることで、生態系への影響も懸念されています。

高槻市には海がないから関係ない？

実は、海洋プラスチックごみの約8割は街ごみ由来と言われています。ポイ捨てや不法投棄などにより放置され、散乱したごみが、雨や風によって河川に入り、海に流れ出てしまいます。生活で出たごみを海に漂着させないために、プラスチックと賢く付き合うことが大切です。

私たちができること

使用を減らす
マイボトルやマイバッグの使用、簡易包装の商品を選ぶ

適正処理をする
ゴミの分別やリサイクルをする。ポイ捨てをしない

回収する
街中や河川、海岸で清掃活動を行う

分解できる製品を選ぶ
生分解性プラスチックなどを利用した製品を選ぶ

たかつき歴史アラカルト95

古曽部の「弁天功徳水（くどくすい）」伝承

昔から、稲作には天候が大きく影響を与え、豊富な水の確保に人々は苦労しました。

江戸時代の慶安5（1652）年夏、干ばつが長く続きました。古曽部村では氏神の日吉神社で降雨を祈る儀式（雨乞い）を行っていたところ、満願の日に大地が鳴動して村域の南で水が湧き出たと言います。さらに、その7日後に約6㎞離れた北部の原村で祭られていた弁財天像が突如現れたとされます。弁財天は、七福神の一尊に数えられますが元々インドの河を神格化した存在で水神として信仰されてきました。

これを知った高槻藩主・永井直清は、記録に残すため、儒学者の林羅山に依頼して、文章にまとめ、村に授けました。

古曽部村ではこの泉を「功徳水」と名付け、村域の西国街道の北側辺りに弁財天社を祭ったと伝わります。功徳水とは、神仏の恵みでご利益を得る水を指します。

その後、日数を限って弁財天像を納めた厨子の帳（とばり）を開き、特別に拝観できるようにすることで、参詣者から浄財を集めていました。たびたび弁財天のご開帳があり、水に関わるご利益にあやかろうと多くの参詣者でにぎわったようです。

この弁財天社は、明治10（1877）年ごろ、日吉神社に合祀されました。かつては高槻城下から西国街道へ向かう「弁天道」の名がありましたが、鉄道建設で消滅したとされます。しかし、伝承地は今、JR高槻駅東の「弁天こ線橋」の名に受け継がれています。

（しろあと歴史館）

日吉神社

弁天こ線橋